



# 研究所だより



2020. 8.27 No. 2



## 上ノ加江周辺の水田

早いところでは稲刈りが始まり、秋の気配を感じるころになりましたが、残暑は厳しいようです。

さて、新型コロナの感染の流行により、さまざまな行事が中止、オリンピックまでもが来年に延期となりました。子どもたちにとっても、大人たちにとってもなんだかさみしい夏休みだったのかもしれないですね。そして、日本では、新しい生活様式が叫ばれ、どこへ行くにもマスクが欠かせない日常となりました。しかし、そんな生活から生まれる良いこともありました。離れた場所でも授業や仕事ができることが分かったことです。また、各地で広がった医療従事者への支援や励ましの言葉などが生まれました。一般の私たちはこのコロナの前では何の力もないわけですが、人の奥底にある思いやりの心だけはみんなが持っている力。それを信じて、日々過ごしていきたいものです。

## 令和2年第1回中土佐検定の結果

### 小学校算数

学年	1年生 (検定なし)	2年生 (15級)	3年生 (12級)	4年生 (9級)	5年生 (6級)	6年生 (3級)	町全体
受検者数		31	35	49	36	41	192
平均点		97.7	96.2	92.7	87.6	95.7	93.8
合格率 (%)		100%	100%	100%	94%	100%	99%

### 中学校英語

学年	1年生 (9級)	2年生 (6級)	3年生 (3級)	町全体
受検者数	24	43	40	107
平均点	94.1	88.0	89.6	89.9
合格率(%)	100%	93%	98%	96%

### 中学校数学

学年	1年生 (9級)	2年生 (6級)	3年生 (3級)	町全体
受検者数	24	43	40	107
平均点	79.0	79.4	81.0	79.9
合格率(%)	88%	93%	85%	89%

※平均点は本試験のもので、合格率は再試験、再々試験を含めてのもので、中土佐検定は基礎学力を身に着けるとして、算数や数学は、計算問題が中心となっています。

同じような問題を何度もやることで、脳の前頭前野を鍛えることができます。

前頭前野は脳の司令塔、鍛えることで安定的な「こころ」と「知能」が育まれます。

(川島隆太教授講演より)

## 中土佐検定の取り組み

コロナの影響で休校になり、思うように授業を進めることが困難な中、各校、中土佐検定に一生懸命に取り組んでくださり、本当にありがとうございました。どのような取り組みがされていたのか、先日の教科検討会でお聞きしました。

小学校

学校で		
	昨年度	変更点
大野見小	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校全体でにんむすタイムで取り組む</li> <li>朝自習10分間取り組むときもある。</li> <li>授業中にも課題としてテキストを進めるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>曜日に分けて取り組んでいる（火曜朝：こたばのきまり、木・金昼：算数テキスト）</li> <li>本試前にプレテストを実施</li> </ul>
上ノ加江小	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校全体で水曜日 15～20分取り組んでいる。</li> <li>掃除のあと5分間取り組む日もある。（10分に変更してもよいのでは）</li> <li>両方ともテキストを中心に学習している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上小タイムとして行っている</li> <li>掃除の後の時間は今年国語を実施</li> <li>テキストに書き込めるスペースがあるとい。</li> </ul>
久礼小	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校全体で水曜日の1時間目に10分間検定問題に取り組んでいる。</li> <li>授業中にも課題としてテキストを進めるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10分→15分</li> <li>「かだめし」のページがせまいので、書き込めるようにしてほしい</li> </ul>

中学校（数学）

学校で		
	昨年度	変更点
大野見中	<ul style="list-style-type: none"> <li>帯タイムで週1回10分間テキストを使った学習</li> <li>チャレンジタイムでテキストのプレテストをA・Bを2日間に分けて50分で実施、80点未満の生徒は再テストを実施する</li> </ul>	<p>（追加）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>取組の最初にプレテストを実施。間違った問題から取り組んでいる</li> </ul>
上ノ加江中	<ul style="list-style-type: none"> <li>終学活前10分間ノートにテキストの内容を解く</li> <li>6月に入ってプレテストAを2教科50分で実施</li> <li>テスト1週間くらい前からプレテストを4回分に分け、10分でできるテストを作成と実施第1回の取り組みのみ）第2回は進度に差があり小テストができなかった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プレテスト80点未満の生徒を放課後20分残して取り組ませた</li> <li>プレテストの内容を細分化し、短時間で複数回取り組んだ</li> <li>今年度小テストは実施していない</li> </ul>

久礼中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3週間前より取り組み開始</li> <li>・毎週金曜日朝読の時間に5分でできる小テストを実施⇒教科で採点</li> <li>・1週間前プレテスト A・B から抜き出してプレテストを作成し実施</li> <li>・学力の厳しい生徒には、生徒の学力にあったプリントを用意して対応している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4週間前より取り組み開始</li> <li>・朝学習や帯タイムで小テストを14回実施し、2問以上間違った生徒は再度行う</li> <li>・テキストの問題を抜粋して授業中に行った</li> </ul>
-----	---	--

## 中学校（英語）

学校で		
	昨年度	変更点
大野見中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャレンジタイムで英・数プレテスト AB を実施、80点未満は再テスト</li> <li>・帯タイムで週1回10分間テキストを進める</li> <li>・授業中：高知これ単検定週1回⇒2週目テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帯タイムの1学期は3週間これ単に組み、次の週テストを行った。2学期からは週ごとに交互にこれ単とテストを行う</li> </ul>
上ノ加江中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の反省を踏まえて学年で過去問を利用して取り組む。プレテスト AB 過去問とも満点を目標。60点未満は放課後残す</li> <li>・チャレンジタイム10分間でテキストを進める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレテスト B は宿題にした</li> <li>・80点未満を残すようにした</li> <li>・テキストの進度は子どもに任せている</li> </ul>
久礼中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3週間前より取り組み</li> <li>・毎週金曜日朝読の時間に5分でできる小テストを実施⇒教科で採点</li> <li>・1週間前プレテスト A・B から抜き出してプレテストを作成し実施</li> <li>・80点未満の生徒は再テストを実施 80点未満はプリントを家庭学習で追加</li> <li>・検定前⇒数・英の一日交代でテスト勉強</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4週間前より取り組み</li> <li>・月、水、金に小テストを実施（14回）</li> <li>・80点未満のプリント学習の実施は学年によって行っている</li> <li>・検定前はテキストから抜粋した問題を取り組ませている</li> </ul>

### 教科検討委員会の目的

- ① より良い中土佐検定の実施
- ② 各校の取り組みの交流
- ③ 中土佐町児童生徒の学力状況を知り、課題を共有すること
- ④ その他



先生方の熱心な取り組みにより、救われる子どもたちがいます。昨日まで、わからなかったことがあきらめなかった先生の指導により、「わかった」と思う子どもたちがいます。

どうか、今後ともよろしくお願いします。

## 中土佐検定 漢字

漢字検定の内容が、昨年と少し変わります。これは教科検討委員会において、テキストに漢字だけではなく、対義語、ことわざ、類義語などもあるので、それも入れてみてはどうか、という意見が出たためです。漢字の書き問題も多かったので、少し、やりやすくなったのではないかと思います。実施後はまた、意見を聞かせていただきたいと思います。

(例)

1. 漢字の読み 20 問    2. 漢字の書き 25 問    3. 選択問題 (下記)

<table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td>オ</td><td>エ</td><td>ウ</td><td>イ</td><td>ア</td> </tr> <tr> <td>欠点</td><td>基礎</td><td>未来</td><td>施設</td><td>希望</td> </tr> </table>	オ	エ	ウ	イ	ア	欠点	基礎	未来	施設	希望	<p>⑤ 願望    (    ) ④ 設備    (    ) ③ 将来    (    ) ② 基本    (    ) ① 短所    (    )</p>	<p style="text-align: right;">類義語 (4級)</p> <p style="text-align: right;">次の類義語Yを□から選んで記号を書きなさい</p>
オ	エ	ウ	イ	ア								
欠点	基礎	未来	施設	希望								



<p>です。</p> <p>◎第一回目の検定は九月二四日(木)</p>	<p>2級</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・慶弔(けいちよう) けいよう・けいおう</li> <li>・逸脱(いつだつ) めんだつ</li> <li>・フンガイ(憤慨) 墳奮・概慨</li> <li>・シヨジョに(徐々に) 除・徐</li> </ul>	<p>4級</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・醜聞(しゅうぶん) しゅんぶん</li> <li>・紛糾(ふんきゆう) ふんきよう</li> <li>・マサツ(摩擦) 際・擦</li> <li>・エンギをかつぐ(縁起) 縁起・演技</li> </ul>	<p>6級 ( ) の中は正答 赤字は間違い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・尊い(とうと・たつと) い・とおと</li> <li>・チョゾウ(貯蔵) 貯蔵 貯職</li> <li>・ソウジユウ(操縦) 操従・繰従</li> </ul>
-------------------------------------	--	--	--

# つながる教室

各校の授業研究も少しずつ再開し、研究所も参観されてもらっています。

5月21日(木)

久礼小学校6年生 27名

授業者 坂本和恵 教諭

算数「数量やその関係を式に表そう」

この日は三密を避けるために体育館で行われました。そして、この日の課題は「 $20 \times x = y$   $20 \div x = y$  という式に合う場面をつくろう」でした。

一人で考えた後はグループでの学びあい、そしてみんな

で共有するといった授業構成で、子どもたちの自立した姿が見られました。

7月17日(金)

久礼中学校2年生 32名

授業者 坂本 奈優 教諭

数学「一次関数 それぞれの変化のしかたを説明しよう」

AとBの水そうは同じもの、はじめから少しだけ水が入っています。それぞれ一定の割合で水を入れるのだけど、どちらの蛇口のほうが早く水をためられるのか、という問題に、これまでのくらべ方で考える生徒さんたち。グループでの学びあいも良くてきていることに感心

した次第です。

このほか、久礼小学校のたんぼぼ学級、2年生や3年生、大野見小学級の3・4年生と5・6年生、大野見中学校の1年生の数学の授業にお邪魔させていただきました。ありがとうございました。

2学期もよろしくお願いいたします。



大きな水のかさを簡単に調べる方法を考えよう



## 「主体的・対話的で深い学び」の授業づくり

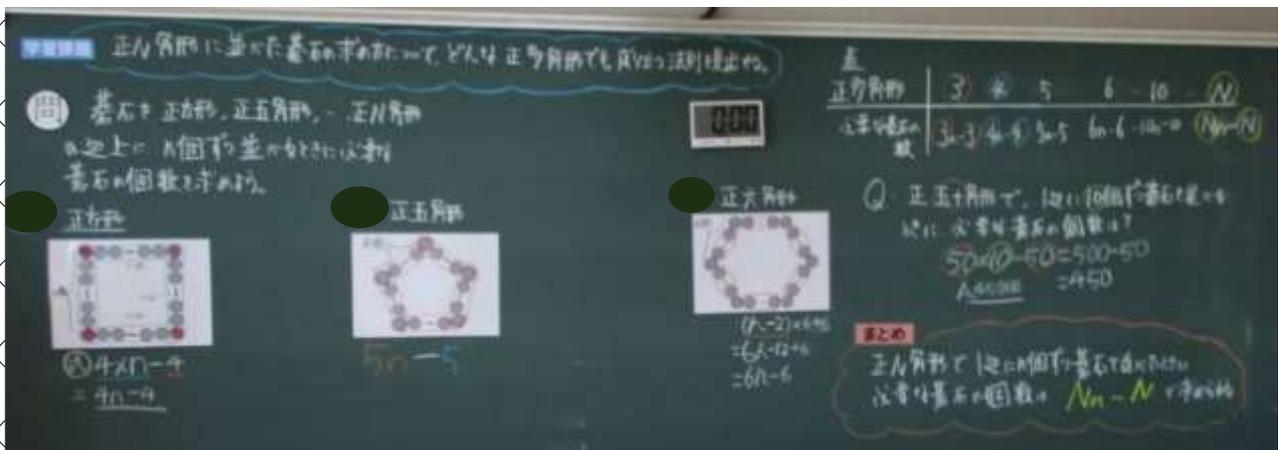
中土佐町教育研究所 森 将人

1学期は大野見中学校数学科の中尾先生にご協力いただき、文字式の指導について研究させていただきました。単元のゴール（目指す生徒の姿）を明確にした単元計画を作成し、授業づくりを行いました。単元の終末には『数学的活動を通して、文字式の「よさ」や「有用性」を実感する』というねらいの公開授業を行ったので、紹介させていただきます。

### 【提案内容】中学校1年「文字と式」【授業者】中尾 雅人 教諭(大野見中学校)

#### 提案授業の内容

前時に生徒は、正三角形の1辺に複数個の基石を並べるために必要な基石の数を求める問題を、囲み方や規則性に着目して辺に置く個数が変化しても文字式で表すことで、簡単に求めることができることを確かめた。本時では、並べる形を変えても同じ考え方で式を作ることができ、変化する数量に着目し、規則性を見だし文字式で表すことで、新たな関係を式で表すことができるようにした。



#### 授業の様子

3人の生徒にそれぞれ1つずつ正方形・正五角形・正六角形の時に必要な基石の数を求めるための式を考えさせ、発表させた。どの生徒も前時の自分の考え方に基づいて、式を求めることができていた。これらのことを表にまとめ、正N角形の時に必要な基石の数を求める式を作ることができた。

#### 授業者の声

生徒が意欲的に取り組んでいた。全員、前時の考え方をもとに囲み方や式の説明ができていて良かった。この単元では、他にもマッチ棒を使って様々な多角形をつくる時に必要な本数を求めることをしたので、今後、統合的・発展的に考えるための土台作りができたのではないかと思う。一年次は文字式の学習が始まった段階なので、授業の導入では日常の事象を取り上げていく方が、より生徒の興味・関心を引くことができると感じた。

## 小学校社会科副読本 編集中

8月20日(木)に第2回目の編集委員会が行われました。新学習指導要領に沿ったものになるよう、中城守編集委員会の会長さんをはじめ、各小学校編集委員さんが多忙な毎日の中、資料集めに駆け回り、作っております。今回は大まかな原稿の確認作業を行いました。次回の11月までにはきちんとした原稿にし、研究所の方で取りまとめ、何度か校正する予定です。今、中土佐町は新庁舎や消防署の建設が進んでおり、若干地図等に変化があると思われます。できるだけ、「現在」に近い状態で出版できることを願っております。



左は消防署，右は久礼保育所，下は中土佐町の庁舎となります。



先日取材してきた梶原町の図書館です。梶原町には隈研吾氏設計の建築物が数棟あります。

## おわりに

本年度は研究員が数学教諭ということで、先に紹介しましたように新学習指導要領に沿った数学の授業づくりの研究を行っております。研究協力して下さった大野見中学校をはじめ各校には大変感謝申し上げます。研究はまだ、始まったばかりです、今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

令和2年の夏は、コロナ感染症と例を見ない猛暑の日々でした。新学期が始まりましても、まだまだ気の抜けない日々が続くと思われまますので、どうかお体には十分お気をつけください。

中土佐町教育研究所

所長 野村 泰子